

ありのまま あなたのペースで少しずつ

7月からひきこもり支援を本格始動！

誰もがひきこもりの状態になる可能性があり、特別なことではありません。

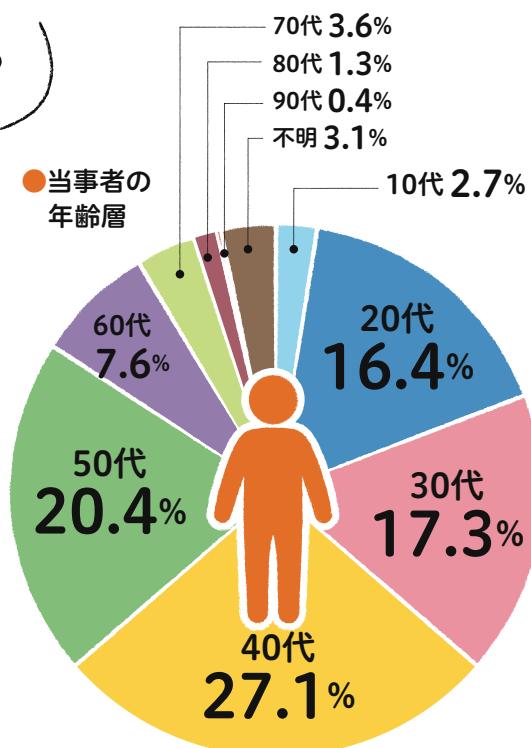
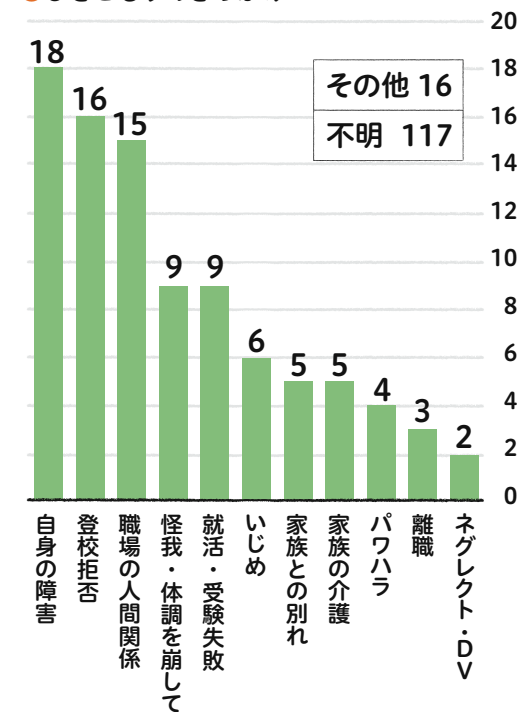
悩みを抱えている方やその家族、関係者の方の声に耳を傾けていきます。

閩福祉総務課自立促進グループ ☎4566-2453

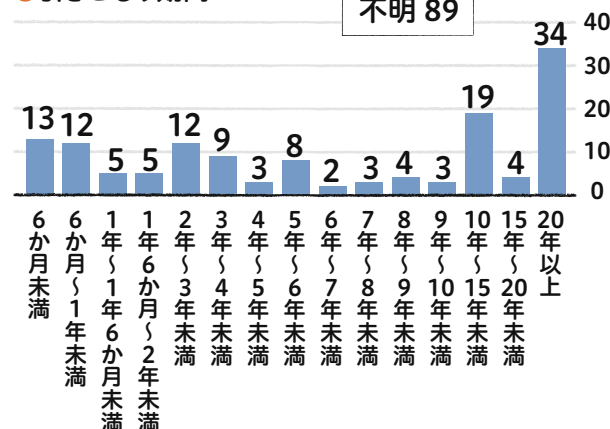
ひきこもりって、ひとごと？

ひきこもりの状態にある方は、全国に約100万人いるとされ、豊島区でも約2,000世帯が該当すると推計しています。過去の窓口相談225件から、当事者の半数近くが40～50代、ひきこもり期間が20年以上の方が一番多いということがわかりました。

●ひきこもりのきっかけ



●引きこもり期間



ひきこもり専用相談窓口 が整いました！

今まで分野・世代ごとに分かれていた相談窓口を一本化。また、対面に限らずに様々な方法で、どこでも気軽に相談できるようになりました。

相談は、一人ひとりの気持ちや状況を聞いて、時間をかけて向き合います。その中で、本人の希望にあわせたオーダーメイドの支援プログラムを考えていき、必要に応じて関係機関につなげていきます。

●相談時間…午前8時30分～午後4時30分
月～金曜日(祝日、年末年始除く)

①専用相談窓口

区役所本庁舎4階福祉総務課
ひきこもり相談窓口

②専用相談ダイヤル

☎4566-2427

③Eメール

A0029452@city.toshima.lg.jp

④豊島区ひきこもり情報サイト

専用ホームページ(2次元コード参照)の
問い合わせフォームから相談できます。



⑤アウトリーチ支援員

区民ひろば8か所にいるCSW(コミュニティソーシャルワーカー)が、ご自宅や近くの場所で直接お話を伺います。

▼情報サイトイメージ



ひきこもり支援協議会ができました

学識経験者や支援団体、地域の方などがメンバーとなり、支援の方針や在り方について検討しています。メンバーとしてひきこもりの当事者の方も参加しています。

私たちがサポートします



会長 中島 修氏(文京学院大学人間学部人間福祉学科 教授)
副会長 福井里江氏(東京学芸大学教育心理学講座 准教授)

多くの人々がどこか生きづらさを抱えている今、ひきこもりは特別なことではありません。本人が安心して今を受け止められているかどうか、それが何より大切です。協議会の中では、問題の解決が大事なのではなく、話を聞いてほしい時に抱えていることを話せる場所、人が必要だという声があがっています。当事者に寄り添いながら、より具体的なアプローチを検討していきます。